



国指定名勝 清水園のシンボル「唐崎の松」

新 新潟県新発田市の「唐崎の松」を紹介します。

新発田市の清水園(写真1)は、江戸時代に新発田藩が近江八景の風景を取り入れて造成した国指定名勝です。「唐崎の松」と呼ばれるこのアカマツ(写真2)は、清水園のシンボルとして親しまれてきましたが、松くい虫被害によって樹幹の一部が枯れて樹勢が衰え、枯損が心配されていました。このような状況から、平成28年1月に清水園を管理する北方文化博物館の要請を受け、東北育種場(岩手県滝沢市)は、同年2月に現地で穂木(つぎ木に用いる枝)(写真3)を採取し、場内でつぎ木を行い、苗木を育成しました(写真4)。

その後、残念ながら親木は枯れてしまいましたが、平成30年4月には、植樹できるまでに成長した苗木3本の清水園への里帰りが行われ、このうちの1本は元の場所に植樹されました(写真5)。清水園の関係者からは、「里帰りした苗が長い時間をかけて育ち、唐崎の松が元気だった頃のように景観が戻ることを楽しみにしている」との喜びの言葉がありました。

長年、多くの人たちに親しまれてきたシンボルである「唐崎の松」が、後継樹を残したいという地域の期待に応じて順調に成長し、かつての景観がよみがえる日が待たれます。



1 清水園、2 唐崎の松の親木、3 親木から採取した穂木、4 つぎ木苗、5 里帰りした後継樹



巨樹の後継者が里帰り

天天然記念物として地域に親しまれている2本の巨樹の後継樹を紹介します。

一つ目は、広島県庄原市の「平子のタンバグリ」です。樹高15m、幹囲り約5mのこの木は、クリでは県下で最も大きく全国でも有数の巨樹として県の天然記念物に指定されています。古木で幹に大きな洞が空いていますが、それでも樹勢は強く実もつけます。将来に備え関西育種場(岡山県勝央町)に要請があり、平成30年2月に採取した枝をその春につぎ木し、翌年4月に後継樹が里帰りしました。すでに植栽された後継樹が大きく成長し、立派な実を多くつけることを期待しています。

二つ目は、兵庫県朝来市の「延応寺の大ケヤキ」です。県指定天然記念物となっているこの木は、ケヤキでは県2位の巨樹で、樹高25m、幹周り約9m、樹齢1,000年以上と推定されています。1239年に創建された古刹・延応寺には、この大ケヤキの枝に千手観音が飛び移って本堂の火事から逃れたという伝説があります。樹勢が衰えてきた大ケヤキの貴重な遺伝子を残したいとの延応寺からの要請を受け、当场が平成28年11月に枝を採取し、翌年春につぎ木で増殖した後継樹は、平成30年3月に里帰りしました。地域の人たちに親しまれてきた「延応寺の大ケヤキ」と将来をつなぐ取組となりました。

今後も、「林木遺伝子銀行110番 — 貴重な樹木の里帰り —」に取り組み、地域や学校のシンボルとして親しまれてきた巨樹・巨木、遺伝的・歴史的に貴重な天然記念物・文化財等の増殖保存と里帰りを推進します。



1 平子のタンバグリの親木、2 平子のタンバグリの後継樹、3 延応寺のケヤキの親木、4 延応寺のケヤキの後継樹